

沖縄県の保健所における心身障害児の発見から療育システム に関する親へのアンケート調査の結果から

研究協力員 落合靖男
沖縄県小児発達センター

1) 研究の目的

前年、沖縄県の心身障害児の発見から療育まで保健所を中心として実施してきたことを報告した。

今回はそれぞれの地域の親がどのように受け止め、さらには何を希望しているのかをアンケート調査を中心にまとめる。

2) 研究の方法・対象(表1)

前回7つの保健所をAブロック(コザ・中央保健所)、Bブロック(石川保健所)、Cブロック(宮古・八重山保健所)、Dブロック(南部・名護保健所)別の特色を述べた。

今回5つの保健所を3ブロック(Bブロック、Cブロック、Dブロック)に分け、Bブロックは当センターワーカーが会場で直接記入をしてもらい、Cブロックは保健婦へ依頼し、Dブロックは個別にアンケート用紙を送付した。回収数はBブロックが7名、Cブロックが38名、Dブロックが59名、合計104名であった。方法として、各専門スタッフ(受付、医師、保健婦、看護婦、PT、ST、保母、心理判

定員、ケースワーカー)と障害児を地域で育てていくうえで問題点、希望についてアンケート調査を実施した。

3) 結果(表2)

イ) Bブロック(小児神経科医の診察・心理判定・親子ふれあい教室):石川保健所
全体的にハード面、ソフト面について大方満足であるとの回答であり、現在の方法が継続されれば良いということから、希望的には療育センターがあれば日常的に利用できてよいとのことであった。

ロ) Cブロック(小児神経科医の診察・心理判定・保育・理学訓練・言語訓練):宮古及び八重山保健所
診断場面における部屋の問題、告知については少し配慮が必要と言う声があった。理学訓練や言語訓練については実施割合にたいする不満が多く、希望として訓練回数と訓練時間を長くしてほしいとの声が多かった。

障害児についての相談場所は保健所が良いと思うのは半数であり、その理由としてはむしろ身近な役所の方が良いとの声もあった。

「あなたの地域では障害児は育てやすいと思いますか」の問いに対して否定的なのが半数以上であり、その理由として訓練を受ける機会が都会に比べて少ないことをあげている。このことを受け今後への希望としては療育センターの設置を望む者が多かった。

ハ) Dブロック（小児神経科医の診察・看護婦・心理判定・理学訓練・言語訓練・福祉相談）：南部及び名護保健所

診察室の問題、告知を含めた家族への配慮については約3割が充分ではないとおもっている。理学訓練や言語訓練に一方で満足しつつも回数の少なさや時間の少なさへの不満が多かった。

この地域においても家族にとっては障害児が育てにくいとの印象を持っている。その理由として、居住地に療育センターがないこと、一時的に預かる施設がないことをあげ、一方では巡回療育の実施回数を増やしてほしいとの希望がある。

4) 考察

離島を含む遠隔地域の心身障害児の保健・医療・福祉の包括的サービスが現実的な対応として一定程度の評価をうけながらも、今回の調査結果から内容の充実に向けて、巡回の回数

を増やすか希望的には対象者のニーズに沿った療育センターの必要性がより強調された。巡回療育及び発達クリニックの会場、交通の便、所要時間等のハード面については多くが問題なしとしており、但し、一部には離島の離島であるため船や車を乗り継いで1日がかかりでくる者もあり、交通の不便さを訴えていた。ソフト面では受付、保健婦、保母、福祉の対応については良好な印象を持っていた。療育の中核となる診察室でのインフォームドコンセント、その後のケアの問題、理学訓練や言語訓練の回数・割合の少なさに対して今後検討の余地があるように思う。

巡回療育の充実、療育センターの設置、レスパイトケアの必要性、障害児の受入れが地域の保健所や教育機関にひろがることで地域での共存を多くの親が希望していた。

〔表1〕

（障害児の現況について）

アンケート項目1から7まで

地区別年令別性別

地区別 年令 性別	Bブロック (石川保健所)	Cブロック (宮古保健所) (八重山保健所)	Dブロック (名護保健所)	合計	
0～3才未満	男	2	2	9	13
	女	2	3	12	17
3～6才未満	男	2	10	15	27
	女	1	8	8	17
6才以上	男		7	9	16
	女		8	6	14
計	男	4	19	33	56
	女	3	19	26	48
合計	7	38	59	104	

地区別年齢別性別

地区別 病類別	Bブロック (石川保健所)	Cブロック (宮古保健所) (八重山保健所)	Dブロック (名護保健所) (南部保健所)	合計
脳性麻痺		9	14	23
精神発達遅延	6	21	25	52
その他	1	8	20	29

地区別親年代別

地区別 年代別	Bブロック (石川保健所)	Cブロック (宮古保健所) (八重山保健所)	Dブロック (名護保健所) (南部保健所)	合計
20～30代	7	29	46	82
40～50代		9	13	22

地区別発見年齢

地区別 発見年齢	Bブロック (石川保健所)	Cブロック (宮古保健所) (八重山保健所)	Dブロック (名護保健所) (南部保健所)	合計
1才未満	7	22	30	59
1才～3才		9	23	32
4才～6才未満			1	1
不明		7	5	12

地区別診断機関別表

地区別 診断機関名	Bブロック (石川保健所)	Cブロック (宮古保健所) (八重山保健所)	Dブロック (名護保健所) (南部保健所)	合計
医療機関	6	6	33	45
公的健診		24	19	43
その他	1	8	7	16

〔表2〕

8. 紹介の理由について理解できたか

	総数	Bブロック	Cブロック	Dブロック
理解できた	89名	7	30	52
理解できなかった	3名		2	1
どちらとも言えない	12名		5	7

9. 事前情報は

	総数	Bブロック	Cブロック	Dブロック
知っていた	37名	2	19	16
知らなかった	67名	5	19	43

10. 利用頻度

	総数	Bブロック	Cブロック	Dブロック
3～9回	45名	4	10	31
10～20回以内	22名		10	12
21回以上	37名	3	18	16

11. 同伴者

	総数	Bブロック	Cブロック	Dブロック
父親もしくは母親	103名	7	38	58
祖母	1名			1

12. 交通手段と所要時間

	総数	Bブロック	Cブロック	Dブロック
車で30分以内	90名	7	37	46
その他(船、徒歩で30分以上かかる)	14名		1	13

13. 会場の適正

	総数	比率	Bブロック	Cブロック	Dブロック
適当	82名	79%	7	28	47
不適	9名	9%		3	6
どちらとも言えない	13名	12%		7	6
計	104名	100%			

14. (不適)の理由

- *待合室に子供の遊び場がないこと。
- *交通が不便

15. 受付の親切度

	総数	比率	Bブロック	Cブロック	Dブロック
親切である	99名	95%	7	36	56
不親切	2名	2%		1	1
どちらとも言えない	3名	3%		1	2
計	104名	100%			

16. 受付の言葉使い

	総数	比率	Bブロック	Cブロック	Dブロック
理解しやすい	101名	97%	7	37	57
理解しにくい	0名				
どちらとも言えない	3名	3%		1	2
計	104名	100%			

17. 診察室の雰囲気

	総数	比率	Bブロック	Cブロック	Dブロック
よい	91名	88%	5	30	56
悪い	名				
どちらとも言えない	13名	12%	2	8	3
計	104名	100%			

18. 診察への安心度

	総数	比率	Bブロック	Cブロック	Dブロック
安心して受診できた	91名	88%	5	32	54
できなかった	名				
どちらとも言えない	13名	12%	2	6	5
計	104名	100%			

19. 医師の説明に対する理解

	総数	比率	Bブロック	Cブロック	Dブロック
理解できた	92名	89%	6	32	54
できなかった	名				
どちらとも言えない	12名	11%	1	6	5
計	104名	100%			

20. プライバシーの保持

	総数	比率	Bブロック	Cブロック	Dブロック
保たれていると思う	70名	67%	7	28	35
思わない	8名	8%			8
どちらとも言えない	26名	25%		10	16
計	104名	100%			

21. 医師の説明に対する満足度

	総数	比率	Bブロック	Cブロック	Dブロック
満足している	75名	71%	6	26	43
していない	1名	1%		1	
どちらとも言えない	28名	27%	1	11	16
計	104名	100%			

22. 家族への配慮は

	総数	比率	Bブロック	Cブロック	Dブロック
配慮していると思う	67名	64%	6	22	39
思わない	5名	5%		1	2
どちらとも言えない	32名	31%	1	13	19
計	104名	100%			

23. (思わない)理由

*一方的に話をされた。

*周りにいろんな人がいるのに大きな声で説明された。

*個室でなかった。

24. 医師の対応は

	総数	比率	Bブロック	Cブロック	Dブロック
満足している	88名	83%	7	31	48
していない	1名	1%			1
どちらとも言えない	17名	16%		7	10
計	104名	100%			

25. 医師への希望

*話やすく

*時間をかけて

*診察回数を多く

26. 看護婦の応対について (Dブロックのみ)

	総数	比率	Bブロック	Cブロック	Dブロック
満足している	43名	73%			43
していない	名				
どちらとも言えない	16名	27%			16
計	59名	100%			

28. 保健婦の対応について

	総数	比率	Bブロック	Cブロック	Dブロック
満足している	95名	91%	7	37	59
していない	0名				
どちらとも言えない	9名	9%		1	
計	104名	100%			

30. PTの満足度

	総数	比率	Bブロック	Cブロック	Dブロック
満足している	37名	56%		17	20
していない	11名	17%		5	6
どちらとも言えない	18名	27%		5	13
計	66名	100%			

31. PTの対応について

	総数	比率	Bブロック	Cブロック	Dブロック
満足している	51名	78%		20	31
していない	4名	6%		1	3
どちらとも言えない	10名	16%		6	4
計	66名	100%			

32. PTへの希望

*訓練回数を多く。

*担当者を変えないようにしてほしい。

*離島から1日ばかりでくるので訓練時間をもっと長くしてほしい。

33. STの満足度

	総数	比率	Bブロック	Cブロック	Dブロック
満足している	32名	57%		18	14
していない	10名	18%		7	3
どちらとも言えない	14名	25%		6	8
計	66名	100%			

34. STの対応 (C及びDブロック)

	総数	比率	Bブロック	Cブロック	Dブロック
満足している	40名	71%		15	35
していない	5名	9%		2	3
どちらとも言えない	11名	20%		8	3
計	56名	100%			

35. STへの希望

*訓練回数を多く。

*訓練回数を長くしてほしい。

36. 心理判定の必要性

	総数	Bブロック	Cブロック	Dブロック
理解している	34名	3	16	15
していない	5名		2	3
どちらとも言えない	13名		7	6

37. 心理判定は役立っていると思うか

	総数	Bブロック	Cブロック	Dブロック
役立っていると思う	32名	3	17	12
思わない	2名		1	1
どちらとも言えない	18名		9	9

38. 心理判定員の対応は

	総数	Bブロック	Cブロック	Dブロック
満足している	31名	3	15	13
していない	2名		2	
どちらとも言えない	19名		10	9

40. 保育の育児支援

	総数	Bブロック	Cブロック	Dブロック
支援していると思う	55名	7	24	
思わない	1名		1	
どちらとも言えない	6名		5	

41. 保母の対応

	総数	Bブロック	Cブロック	Dブロック
満足している	55名	7	23	
していない	名			
どちらとも言えない	1名			

43. 福祉相談が安心してできる (Dブロック)

	総数	Bブロック	Cブロック	Dブロック
できる	50名			43
できない	0名			2
どちらとも言えない	0名			5

44. 社会資源の情報 (Dブロック)

	総数	Bブロック	Cブロック	Dブロック
している	44名			44
していない	2名			2
どちらとも言えない	4名			4

45. 障害児の相談場所は保健所が

	総数	Bブロック	Cブロック	Dブロック
よいと思う	77名	5	18	54
思わない	2名	1	1	
どちらとも言えない	25名	1	19	5

46. 保健所が良いと思わない理由

*保健所はかまえた所があるので、むしろ、役所の方が相談しやすい。

47. あなたの地域は障害児は育てやすいと思いますか

	総数	Bブロック	Cブロック	Dブロック
よいと思う	36名	6	11	19
思わない	20名		8	12
どちらとも言えない	38名	1	15	22

48. 障害児を地域で育てていく場合、困っていること

(Cブロック)

*同世代の子供たちが障害をもっている子供たちと接する機会が少ないため、なかなか一緒になって遊んでくれない。

*訓練を受ける機会が少ないことや、療育センターがないこと。

(Dブロック)

*親が用事で出かけたりする時など一時的に預かってくれるところがないこと。

*役所の担当者に障害児保育の大切さの意識が低い。

*訓練をうける機会が少ないことや、療育センターがないこと。

49. 障害児を地域で育てていくためにどのようなことを希望しますか。

(Bブロック)

*日常的に親子で訓練が受けられる療育センターのような所があれば良いと思う。

*現在のやり方を継続してほしい。いろいろとアドバイスが受けられてとても良い。

(Cブロック)

*障害の度合いによって普通学校でも積極的に受け入れてくれることが、将来障害のある子もない子も互いに立場を理解できることにつながると思う。

*障害児をおおくの人々が理解していくためには、家庭から親が他の子供たちに障害児の話題を多くしていく努力が必要。

*介助する人の都合で一時的にあずけられる施設が必要。

*療育センターが必要。

(Dブロック)

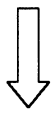
*乳幼児が訓練する療育センターが必要。

*身体が普通と異なることを子供たちが口にしたり、それをネタにいじめがあったりが現実にあるので保育園児から大学まで対応についての学習の機会を取り入れたら良いと思う。

*巡回療育の回数を増やしていけばよい。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1) 研究の目的

前年、沖縄県の心身障害児の発見から療育まで保健所を中心として実施してきたことを報告した。

今回はそれぞれの地域の親がどのように受け止め、さらには何を希望しているのかをアンケート調査を中心にまとめる。